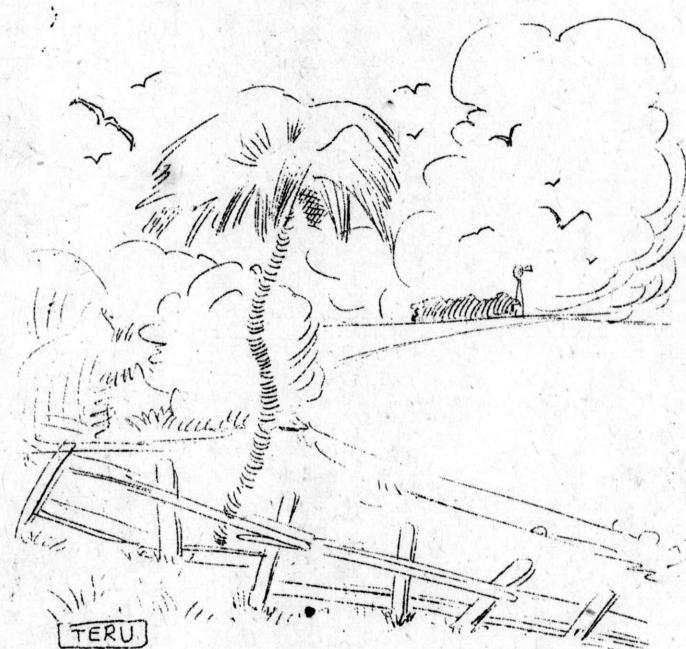


亞爾然時報  
文藝附錄

廿九號

第四卷



Sep.

28  
DE 1929

AÑO IV

NÚM. XXXVIII

SUPLEMENTO LITERARIO

"El Argentino Djijo"

## 得して損した親方

(佛) ピエール・サンティエ 作

「お見度申したところでは、旦那はお後人でわらつしゃ  
いますか」博士の髪と剃りあがら、理髪屋の親方は、  
失つから云はうと思つてゐた言葉と、とうとう吐  
ひました。  
「木、さの見へるがね。僕ははやらぶい法医学者だ  
よ。それはくちつけの幸ひでした。何んで私は蓮の好  
い男ふうでせう」  
仰山に親方は飛び上つて、それから、やけに、にくくし  
ぶから  
如何でせう、恰度お頭の方も大分伸びてゐますから  
それとつましく頂く事として、その間に、ちよどはかり  
御相談申上げたいのですゲ?」

「へえ……なる程……え、旦那睡蓮の花粉をあ  
しにふつたらいいかいですか? かけとりには以つて  
茶で御座ますサ  
と叫んだ。  
「うも、やつてくれ合へ  
「へえ……なる程……え、旦那睡蓮の花粉をあ  
しにふつたらいいかいですか? かけとりには以つて  
茶で御座ますサ  
ボンヌエシユ博士は、タオルで頭をこしらへやりあ  
「重炭酸でも飲んでたまへ」  
「さやうですサ。それがら本の男の兒ガ、しよつたり  
う腹痛を起しおよして、ほと<sup>ク</sup>キのつけやうが脚座  
「が取れおいで困つてゐるので脚座ますサ」  
「さやうですサ。それがら本の男の兒ガ、しよつたり  
う腹痛を起しおよして、ほと<sup>ク</sup>キのつけやうが脚座  
「いま止人のですかね」  
「苔鉛をやるんだね」  
「はあ……では、お頭に香油をおかけ致しませう  
! さりくその姉の方はまた便通<sup>ムロシ</sup>くふい  
ので……」  
下剤をやるんだね」

は、あ、近頃旦那のお頭は匂分がけざ多くなりま  
したふう。如何でせう、明日お髪をお洗ひになりま  
す? いや料金の程は……  
「うむ、やつてくれ給へだがよく既してくれふいと困るぞ。  
頭から血跡を引くこと、匂分多いのだ、さらな  
はいはいさようで。さう、旦那はお医者の方も!  
なるほど、寝つてもよい幸で御座ました。いかいふもの  
で御座ませう。私はがたつむりと数件と、漬菜を数  
本たべましたので、どうも胸が重苦しくて大園りに困つ  
てゐるのですサ」

は、あ、旦那、ちよいと饅をおあてしませう。その方

へ行つたがしら？」

『旅屋の親方はボンメエシユ博士のマッチを手にと

おめでたす』

『おお、おついでに。ところでうちの猫奴は、近頃

少しそうして涙を垂らすので御座ますので……』

『おうせるんだね』

『から犬奴の方は、すっかり毛並抜けてしまつたのです

黄ホマードを塗るんだね』

『はやどり色々とありがたう御座ました。恰度す

つりお頭もお顔もでさ上りました。これでクリーム

とつけ、香水を吹きまると……さ、これで宣しう御座

ます。ま、なんて綺麗におおりなさいました事か！』

『あ、ありがたう、ありがたう』

ボンメエシユ博士は椅子から立ち上った。

え、と、一番大樹リホ御化粧でしたのでお麗とお髪とで

一円、髪洗ひとマッサージと二円、髪セホマード・その他で

三円五十銭、合計六円五十銭のいたゞ——お

理髪屋の親方はこゝで勝ちほこつたやうに、会計係の妻

に向つて声をかけた。

『六十銭の、するほど——ボンメエシユ博士は、この

貰ふ料金には少しも驚く様子は見せずかった。

「一寸待つて受け取へ。僕の方は、また友達の同僚と云

ふ事にして、辨護士としての相談料一円、医師としての

相談四件で四円四十銭、歎医としての相談が二件で一円

五十五銭、合計六円九十銭で四十銭のお釣を貰はふくろはふ

たがん。え、とうとう、それからマッチの食料と忘れてゐ

る！』

詩：

あ・ツ・サ・ア・よ！  
俺は寂しい

度左

ドミニゴの午後

たつたニペソガ卯魔になる

紅い腰簾に奉納しやうが

それとも裸へぼを一幕見やうが

うんにや猿又の新しさでも買えとしやう

正イ皆んぶやめちやえ

されでがやア

明日の飯代はどうあるんだい

ベン・ジョンへ歸つてカマの上に

ジロツコナフたら

急におつかアガ悪しくなつた

寂しげんけど達者でどうやら

働いてゐるケン安べして下され

俺と手紙を書いたら

眼くぶつちやつた。

見たまゝの記

(下)

文  
集  
卷  
之  
二

先月の此の項に予告して置いた通り、今度はマン  
キー映画の「見たまゝの記」と書くつもりだった。  
處でその間に、ひとつつき、「私の気持が變つちゃ  
つた。」同時に、もう終る苦の本年度シーベンダ  
「トーキーぶんて危険ぶ奴の爲めに少し長引いて、  
調子が狂つちまつた。  
だから、予告ぶんがそこのけで、思ひ出したまゝ勝手  
に樂書すべく私は脚と固める。——私が脚を固  
めたら、讀者ぶんがいくら文句と並べたって屁とも  
思は無い私ぶんがらナ——ア……で先月の續きに  
まづ思ひ出すまことに挙げて行くと、エ社の「笑ふ男」が  
あるが、原作と讀んだ事のある人々には興味の八分  
ザ失はれてゐる。この映画に失望落膽する。あれま  
コントラッド・ファイトザ主役をやつたがらこそ、あれま  
でやりこおしたんだらうけれど、一体彼ファイトは  
北米に買はれて行つてから、それでぶつちやるふいと  
私は云ふ。  
相手は、エ社の秘蔵ッ子メアリー・フィルビン。  
理由だが私はあまり彼女と好みない。  
理由が、人間がいい。要するに虫が好かぶいんだらう。  
ガストン・ルルーの原作を脚色したスベラヌの  
怪人レーニコニチャニアーマン・ケリーぶんがと共演し  
たのを見た時、以来——である。

「ナンチャニー」と云へば、一二ヶ月前に封切られた「笑へ  
道化者」、「笑へ」本へサ先づ傑作の部類であらう  
が。もう二年半以前に封切られた「アンドレーフ  
の「駄らる候奴」もやはり彼口の「ナンチャニー」の本稿  
であり、同じ道化者の失態と題材にしたもので  
あるが、監督だけに——たゞシーストロームだつた  
と思ふが、監配は「駄られるあいつ」の方に奉下  
たいと思ふ。だが、免に角、北米ものとしては矢張り  
本年度一方の雄たると失はないであらう。  
それから近来どうしたこことか、猛烈ぶ勢で眞面目  
ぶ意味の探偵小説的映画が進出して來たやう  
だ。一体、探偵小説の本格ものを映画化することは、永年  
専門家の間に、疑問として残されて來た問題である。  
何故なら、本格探偵小説に通有ふ虫眼鏡の調  
査や、長々とした推理ぶんやり、讀んでこそ興味を引  
くが、映画にしたら明治末期の日劇映画の如くダラ  
ダラして見られたもんじや芳い。だから明治末期  
に大向ふと喜こはした「ジゴマ」や「拳骨」や「鉄の爪」  
が、その様に「本格」ものを離れて、別に「活動」ものと  
して發表するの止むかぎに至つたのだ。處が最近  
は「本格」ものとその儘、ブリムに焼きつけやうと  
いふのだから物凄い。甘くいつたら、かふぐさみだが、  
まア／＼無駄骨ではあからうが。  
論より証據、最近發表されたヴァン・ダイン原作の  
本格探偵小説「カナリア事件」を御覧じろ。  
ヴィン・ダインが假名にくれた原作者が何人である  
か、と云ふので北米を猛烈に騒がせた問題の小説だ  
けに、讀んで面白く無い筈は無い。  
本格ものとしては傑作中の傑作である。(因みに  
最近判明した處に依ると、作者ヴァン・ダインは、

何人かの有名な経済学教授で、音楽、美術、文學、其他あらゆるものに通じた博識の人だつたさうである。若し御希望だつたら、目下「ラ・ブレンザ紙」に連載中の探偵小説 "The Extrange Case of Christopher" をお読み下さい——  
附言

光と影の交響曲——そしてオハ藝術であるトコトコ映画界も、美術界も、古来アーティストから自然主義者、それから印象派、後期印象派と推移する如くカリスマベリー、サルバドール・ド・シャン、そしてとくにバンクロフトにまで、モボ、モグの嗜好が美化して来た——ふんで尤もろしい萬といふ又うる。そして星王兼ミシヨンジン・ランフット、元は

しりも主演者は最近メキメキと賣り出したウイリス、ボーエルと、レイズ、ブルックだ。それでみて、映画は全然失敗してゐるつは、どうしてだらう。即ち例の推理するものが、この小説最大のヤマである事に起因するのだ。

然しその他に相当成功したもののがいでもない。  
車ら本格探偵映画に精神してゐると傳えられて  
ゐるクライブ・ブルック及び前記のウイリアム・ボーエ  
ル、其他アルガ・バクラノヴァやメアリー・ブライアン共  
演といふ素晴らし大河、スター・キャストの「忘れ  
られない顔」がそれだ。

これも原作は有名な小説であり、六七年昔にヘリク  
トローフ何とかといふ題名で別の俳優がとたの私  
は見た革があるが、矢張り成功してゐた。

これは「本格もの」ではあるが、相当藝術的氣氛の高  
い作で、やっこしい推理ふんぎのよいのが、映画をさすが  
かつにさも知れまい。

それから同じくクライブ・ブルック、ウイリアム・ボーエル、エヴ  
エリン・ヴェント、ドリス・ケニヨン等共演の「インスター・ミシシ  
ピシ」も、前編ではホレダ「本格もの」としては成功した方  
であらう。最近のニュースを見ると、コナード・コールマンが  
「アルドツグ・ドラモン」と映画化したと云ふから原作が  
活動向きだけに、相当の期待は持てるとと思ふ。  
兎に角、この種類の映画に対するは、未だ（　海のもの  
とも山のものとも極らぶりとだけでお茶を濁して置く。

全世界の隣々に送渡及してしまつた。この調子で行くと、美術界が表現派から未来派に推移する如く彼等驚くべき巨作もモガの嗜好も鼻が頭のテッパンについたり、眼がうしろに光つてゐる様な變態性を帶びはじめながら、それ程猛烈な顔を悲しげことに所有してゐる私は、今からべ熙してゐる次第でアリマース。  
それはさておき、ジョージ・バンクロフトの苦ぶんが、あつさり用語体験、ちやつてお次に移る。  
先づけちやつてお次に移る。  
——といった所で、先月だつたら、あれも書かう、これも書かうで、大分私の頭に残つてゐたやうだが、一日たつたらもう何もありやアしない。  
ア、さうくラモン・ナヴァルロとノーマ・シエラーの共演、  
「アーモンド・デ・アンビ」を脚本になりましたか？  
「皇子の恋愛」は、レオナルド・ペイジ監督の焼きふはしです、「ケティ有名女、ハイデルベルクの煙草」ともて——にてお處も悪く  
く！ サクセボルグのバンドともて——にてお處も悪く  
く！  
しかし、此の節、ヤンキーにスケベッピ！ エンドからぬ映  
画の面白味が少しは了解できる様にあつたから不思  
議だ。これぞその一つだ。  
其他にもチヨイ、ある。今迄私が舉げたりも殆んど  
それだ。  
それから一泊七天国で賣り出したジャネント、ディナ、  
及びキヤーレス、ファーレス、共演の「街の天使」も、こ  
に挙げとく實値はあらう。

## 壁と彼

M. BASTIEN

して、すゝけでしまつてゐるに過ぎなかつた。  
彼は壁でマツチをつけて、三本目のタバコに火  
をたした。

(一九三九・九・二)

見たまゝの記 (四頁のつづき)

其他「トーキー」あるものは未だ沢山ある。  
前記の如く、今迄の映画が所謂オペラ藝術であるならば  
「トーキー」はオカル藝術である。さればならぶ」と一人は  
云ふ。勿論これにも七面倒臭い理由がある。何の役  
にも立たないから省くとして「トーキー」は「トーキー」とし  
て金然別に発達しなければならぬとだけ申添へて  
おく。それから「二人ふ事と書き並べてゐた日  
にや、切り替ひ、からい、加減の處で放つて」  
エーと云ふことにしやう。

（正誤）と云ふことには、  
（アーノルド・ランチエスカベルティニの  
アーノルド・ランチエスカベルティニの間違）

（15）

歌：丘詠

著者：見子

ふとおけし古き手稿に若き日の

決にじめる文の出でけり。

春雨のそぼ降る夜をたゞ一人  
すずし思ひでよつかしも  
歩行さて泣かんと思ふ此頃の  
われにも知れぬ心ふるがふ。

色にすゝけてしまつた壁と十燭の鈍い電燈が、  
ほんやりと照らしてゐた。彼はそのすゝけた壁でローマンチをすつた。  
ユーリイ音を立て、マツチを登火した瞬間、彼の  
影が横側の壁にうつる。彼はそれに残された白いすり跡を眺めながら煙草に火をつけた。  
壁には一枚の絵がぶら下つてゐた。それは、彼の友人である画家が、彼の爲めに特  
に書ってくれたと云ふ。若い女性の物思にふけつてみると、その絵は、彼の友人である電燈のせいであつた。余計淋しきに見へる。  
そのうすだれた物思ひにふける若い女性の首のあたり  
タバコの煙が、さすがに漂つて、つづりくともつた。  
合つては天上的方へ、すみとられてゐつた。  
彼は以前、この壁に裸体画を掲げて眺めたことがあつた。  
しかし、その裸体画を掲げた晩、その絵を見てゐる  
中には何とも云へふし懨しい衝動が絵の中から夕  
べの煙を渡つてきて彼の心を苦めた。彼は、その絵と無茶苦茶に引きやがつて肩籠の中へたゞ入んてしまつた。  
壁には取り残された一枚の絵だけが、憂鬱にす  
けられた。今までの絵は、憂鬱のありつたけと彼の心に注が  
込んでしまつて、今では壁と同じやうに、がらんと

# 三つ星出来事

## 世之助

彼の空虚ふ眼は、見開いたま、空虚に暗いく  
空を凝視てゐる。彼の頭は、初めてやがて見せつけられた死に対する恐怖  
で一杯ふのだ。若しエレーナが死んだら……考へたがりで、あとに  
残された二人の子供を抱いて靈廟に暮れてゐる。彼自身  
の惨めな姿が、幻の様に目に浮ぶのだ。  
いやあとに残された僕がんが、どうでもいい。それより、あの  
可愛いエレーナとどうして今死をせてよいものか。どう  
しても、エレーナと別れるのはいやだ。表へく向、苦労  
に苦労と重ねて、やつと、これから……さうだ。本当に  
やつと、これから娘が出来やうといふ今にあつて、あれ  
を死がせるなんて、そりやあんまり惨憺だ。

彼の目がうは止めどなく涙が溢れ出て、蒼白い頬を  
流れれる。彼が凝視める暗黒の世界。  
力とりのク僧の衣の様に墨い無氣味の空を吾が物  
顔に不吉な三つ星が燐としてゐる。

開放された窓から死神の手の様に忍び込む寒  
い夜風に彼が思はず身慄いした時——アッ、三つ星  
が流れた。

三つ星が本領された——

(次頁)

子供の時によく嗅つた歌の氣味悪く頭に浮ぶ。  
あ、三つ星が流れた。もう駄目だ。不吉な三つ星  
が流れたんだもの。

血の氣を失つた彼の唇から洩れるガツ／＼と歯のগち  
合ふ音。居ても立っても居られまい程、肯立つた彼の狂ほしい眼  
が、突然、近所のアパートメントに輝くヴィーーの電燈眼  
並みにぶつた大きぶ瓶の口から眞紅の滴が、下の

ゴーパと満して行く。  
一杯にあると、パッと消へて、又新しく満して行く。  
血だ。エレーナの眞紅の血だ。  
あ、二杯目が消えた。あ、又三杯目。  
エレーナの血が段々にぶくぶるのじやふやらつか。  
又々……  
——と彼の両手は、広告燈を拭き消す様に腕をぶく  
らぬと泳ぐのだ。あ、三杯目。  
あへかに苦労へさせなかつたら、今度、血ふへか吐き  
やしがかつたらうに……  
許して呉れ。エレーナ……

彼は此の上、恐ろしいものを見て居られふといふ様に  
荒々しくコルティーナと引いた。そして両手で頭を抱え  
あやうエレーナの室に通ずる扉の前を、往復し初め  
た。ドトルは未だ診察してゐるんだから。  
そんが、大車をこむやうがらい——エレーナは駆  
け出され——あ、何と言ふても後の祭だ。  
可哀想には——まさか肺病にからうことは想像もしき  
つけれど……あ、何と言ふても後の祭だ。

麻ヶ岡くとドクトルの難かしい顔が何事を報告する

様に彼の方へ近寄つた。

「先生、もう見込はあいでせうが。もう駄目でせうが。

先生、本当の事を言つて下う、お願ひですから……」

トクトルは一寸困った様な顔をして彼を見た。

「その――見込と申しますと……？」

「え、先生、もう助からいでせうね。肺病も血を吐く

様に苦つちやア……」

トクトルは一寸の間、首をかしげて彼を見つめて居たが、

急に笑み出した。

「ハ……肺病ですって……ハ……素人の方はそれだ

がら困りますね。セニヨーラは唯一寸風邪を引いた

だけです。

咽喉が大分たれていますが、ナニ、ちぎに愈ります

よ、出血したのもそこからなのです。

脚へ靴はありますせんへ……」

茫然としてドクトルの顔を見てゐた彼は、悪夢から醒

めた様に一言も云はず、急に隣室へ走り込んだ。

ドクトルも、いさゝか、あづけにとられた形だつたが、隣室

から流れれる

「よ、かつたねエレーナ。本当に、かつた。もう苦勞

すんが決してさせやしふへる……」

と云ふ柔らしい声を聞いた時、ニコ／＼して帽子と外套

を手にとつた。

## 幸 福 論

ヒエール・ガヘ

フュベエル曰く、幸福とは人生闘争中の一時の休戦状態

ショパンハウエル曰く、幸福とは告白と慾せざる不幸者の  
外観ぶり

ニイツイエ曰く、幸福とは味へつくしたる不幸の謂ひ也

スカンジナヴァの哲学者曰く、幸福とは？ そはまさに死  
ふんとせる一逝星の最後の光り、一千年と経て、漸く地  
上に到達せるもの。我地球も亦すやすに死せる遊星ある  
に、自分の死を知らずして沼上の表にこねと反映す

×夫人曰く、幸福は我にあり。デコブラ街十二番地、中  
二階、左側の扉を、深夜二時にノックしたまへが、じ

(ヤンガーポーイスより)

~~~(7)~~~

詩！ 感想

捨小舟

思ひ出

春の夕

そば風吹けば

いとし

そなたを思ひ出す

ゲエテの恋と

思ひ出す

泣いて別れた

あの恋と